

2021・7・7 【俳壇賞2021 全38句】 選17句

①

鞦韆はまだ半径を越えられず のさばる下に又 豚カツの皮の研究流れ星

潮干狩お前らみんな食つてやる 草食を肉食が食ふ流れ星 花ふらふき

~~蝶舞ふや終着駅を折り返す~~ ~~水銀と銀との違ひ天の川~~ 白銀と水銀の差を フ、フ

~~始発駅の長閑な昼となり~~ 大寒に寝かす味噌酒赤ん坊

~~火口湖の百万トンの涼しさよ~~ ふる雪を解かし切れざる水たまり

公園に地元の赤子風薫る

~~夕立や茄子に胡瓜に雑草に~~

夕立や草刈る人にその草に

六万トンの鉄の倒立夏の海

短夜のソースに化けしトマトかな

高く張る高圧線や秋の空

月の夜の銀新しき奥歯かな

2021・7・8 俳壇賞2021 全42句 選13句

鞆はまだ半径の支配下に

潮干狩お前らみんな食つてやる

火口湖の百万トンの涼しさよ

公園に地元の子風薫る

夕立や茄子に胡瓜に雑草に

夕立や草刈る人にその草に

六万トンの鉄の倒立夏の海

短夜のソースに化けしたマトかな

高く張る高压線や秋の空

月の夜の銀新しき奥歯かな

草食を肉食が食ふ花吹雪

大寒に寝かす味噌酒赤ん坊

ふる雪を解かし切れざる水たまり

ふる雪を解かし切れざる水たまり

ためめを鏡みし又子鏡志る

湖の涼とてま

同は異く尾段毒を

回か射せばすごに木陰や

持羽球大なることな

まきと

焼の古に新たりなうし

まの羽

みん御んちけん御ん岸に

他存るす

写す大ましく

2035
地・克如
い・り
大に
上1句

2021・7・11

3

【俳壇賞2021全52句】

選12句

鞦韆はまだ半径の支配下に

潮干狩食つてやるぞと搔き出せり

草食を肉食が食ふ花吹雪

火の山を鎮めし湖の涼しさよ

夏の夜のソースに化けるトマトかな

公園に地元の赤子風薫る

夕立や茄子や胡瓜も騒がしき

六万トンの鉄の倒立夏の海

高く張る高压線や秋の空

月の夜の銀新しき奥歯かな

大寒に寝かす味噌酒赤ん坊

ふる雪を解かし切れざる水たまり

2021・6・3【俳壇賞2021全69句】

4

選24句

通過駅の長閑な昼となりにつけり

くねくねと腸あそぶ昼寝かな

鞆はまだ半径の支配下に

揚羽蝶黒く大きく美しく

潮干狩食つてやるぞと掻き出せり

蟻を食ふところは見せず蟻地獄

蝶舞ふや終着駅を折り返す

目は黒く尾頭赤き金魚かな

草食を肉食が食ふ花吹雪

みんなんと鳴くやみんなみん蝉一つ

火の山を鎮めし湖の涼しさよ

茗荷の子名札荷ひて忘れ難し

火山の上に百万トンの水涼し

靴下を履いて九月の雨の日々

夏の夜のソースに化けるトマトかな

高く張る高压線や秋の空

公園に地元の赤子風薫る

月の夜の銀新しき奥歯かな

夕立や茄子に胡瓜に雑草に

水銀と銀の違ひや天の川

夕立や草刈る人にその草に

大寒に寝かす味噌酒赤ん坊

六万トンの鉄の倒立夏の海

ふる雪を解かし切れざる水たまり

のけろわんやふ

腹大事

秋の夜

くねくねと腸あそぶ昼寝かな

大事

五月

すさきしぎ

歯前に液じり金歯かな

歯の金歯

とけるかも

とけし金歯あり

2021・6・4【俳壇賞2021全78句】選13句

5

通過駅の長閑な昼となりにつけり
ふる雪を解かし切れざる水たまり

夏の夜のソースに化けるトマトかな

公園に地元の赤子風薫る

夕立や草刈る人にその草に

△六万トンの鉄の倒立夏の海

揚羽蝶黒く大きく美しく

みんなとみんなみんなのただ一つ

高く張る高圧線や秋の空

地下鉄に長き闇あり流れ星

△水銀と銀の違ひや天の川

くねくねとはらわた納め秋昼寝

大寒に寝かす味噌酒赤ん坊

2021・6・9【俳壇賞2021全111句】選21句

6

通過駅の長閑な昼となりにつけり

水銀になりたや天の川ひかる

亀鳴けばぱくりと開く甲羅やも

くねくねとはらわた大事秋昼寝

響かせて特急来たり花の駅

白粉花に漕げば進むよ三輪車

夏の夜のソースに化けるトマトかな

満州にコスモス咲いてをらざるや

公園に地元の赤子風薫る

高く張る高圧線や秋桜

夕立や草刈る人にその草に

ふる雪を解かし切れざる水たまり

六万トンの鉄の倒立夏の海

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く大きく美しく

落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

裏返る高翼単葉機の大蛾

腸詰の腸の悲しみ枯木立

みんなとみんな蝉のただ一つ

9.7 蝉の鳴き声

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

地下鉄の闇の長さよ流れ星

9.7 流れ星の長さよ流れ星

新茶

9.7 新茶の味

新茶の味

2021・6・7【俳壇賞2021全132句】選22句

通過駅の長閑な昼となりにつけり

水銀になりたや天の川ひかる

亀鳴けばぱくりと開く甲羅やも

くねくねとはらわた大事秋昼寝

~~響かせて特急来たり花の駅~~

地下鉄に伸びる暗闇赤い羽根

夏の夜のソースに化けるトマトかな

白粉花に漕がねば止る三輪車

公園に地元の赤子風薫る

~~高くたわむ高圧線や秋桜~~

夕立や草刈る人にその草に

ふる雪を解かし切れざる水たまり

六万トンの鉄の倒立夏の海

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

熱湯に自重うながす新茶かな

モーターにコイルびつしり神の留守

揚羽蝶黒く大きく美しく

落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

裏返る高翼単葉機の大蛾

腸詰の腸の悲しみ枯木立

みんなとみんなみんなの名乗りかな

~~きつろりとコイルをまわして~~

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

~~神のルース~~

任了為加決大事 9.7 へかに
新茶改む

又

密々とか
びつろりとコイルをまわして
神のルース
巻かれたる
コイルに
こぼれか
廻る
台座を千転したる
船年 9.7
なまじり

2021・9・7【俳壇賞2021全159句】選24句



通過する長閑な駅の名が読めず 高くたわむ高圧線や秋高し

亀鳴けばぱくりと開く甲羅やも 水銀になりたや天の川ひかる

日帰りの特急来たり花の駅 くねくねとはらわた大事秋昼寝

夏の夜のソースに化けるトマトかな 地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

公園に地元の赤子風薫る つくつくとつくつく法師名乗りけり

夕立や草刈る人にその草に 白粉花に前輪駆動三輪車

六万トンの鉄の倒立夏の海 ふる雪を解かし切れざる水たまり

湯加減を気遣ひ申す新茶かな 雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく モーターにコイルびつしり神の留守

裏返る高翼単葉機の大蛾 落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

舌頭に千転したる蛞蝓 腸詰の腸の悲しみ枯木立

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな 数へ日に慌ただしきは誕生日

2021・9・7【俳壇賞2021全175句】選25句

9

通過する長閑な駅の名が読めず

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな
数へ日に慌ただしきは誕生日

蒸気ならぬくといものを霞かな

水銀になりたや天の川ひかる

亀鳴けばぱくりと開く甲羅やも

くねくねとはらわた大事秋昼寝

日帰りの特急来たり花の駅

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

公園に地元の赤子風薫る

つくつくとつくつく法師名乗りけり

夕立や草刈る人にその草に

白粉花に前輪駆動三輪車

六万トンの鉄の倒立夏の海

ふる雪を解かし切れざる水たまり

仕る湯加減大事新茶汲む

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

星空にこの子どもこの子雪達磨

裏返る高翼単葉機の大蛾

みつちりとコイルを巻いて神の留守

舌頭に千転したる蛞蝓

落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

夏の夜のソースに化ける赤茄子

腸詰の腸の悲しみ枯木立

2021・6・8【俳壇賞2021全212句】選34句

10

またしても長閑な駅に止るなり 縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

機関車に蒸気と電気朧月 亜米利加へ新車を運ぶ月の船

蒸気ならぬくときものを春霞 水銀になりたき天の川ひかる

亀鳴けばぼかんと開く甲羅やも 是らわたをくねくね納め秋昼寝

夏の夜のソースに化ける赤茄子 地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

公園に地元の赤子風薫る 橋よりも水面に近し月見舟

夕立や草刈る人にその草に 見世物の如くに鴟の贅動く

六万トンの鉄の倒立夏の海 つくつくとつくつく法師名乗りけり

手花火の母も老女となり給ふ 白粉花に前輪駆動三輪車

揚羽蝶黒く正しく美しく ふる雪を解かし切れざる水たまり

裏返る高翼単葉機の大蛾 雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

舌頭に千転せよと蛞蝓 星空にこの子どもこの子雪達磨

珈琲は冷めたままなる神の留守

落葉うづたかし小鬼のかくれんぼ

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

お屋敷の門の内なる落葉搔

お屋敷の大きな扉落葉搔

落葉搔くやうな遊んでゐるやうな

落葉籠押せば落葉の押し返す

旅人は落葉搔には加はれず

山水は落葉の間を抜け行けり

腸詰の腸の悲しみ枯木立

2021・6・8【俳壇賞2021全221句】選20句

またしても長閑な駅に止るなり

つくつくとつくつく法師名乗りけり

機関車に蒸気と電気朧月

ふる雪を解かし切れざる水たまり

夏の夜のソースに化ける赤茄子

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

公園に地元の子風薫る

星空にこの子どこの子雪達磨

夕立や草刈る人にその草に

珈琲は冷めゆくままに神の留守

揚羽蝶黒く正しく美しく

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

舌頭に千転せよと蛞蝓

山水は落葉の間を抜け行けり

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

腸詰の腸の悲しみ枯木立

亜米利加へ新車を運ぶ月の船

はらわたをくねくね納め秋昼寝

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

空よりも水面に近し月見舟

2021・6・6【俳壇賞2021全234句】選25句

12

またしても長閑な駅に止るなり

澄む水に転がる石の音聞かな

腸詰の腸の悲しみ枯木立

機関車に蒸気と電気朧月

澄む水に転がる石を聞かんとす

雪の歌がまじ

春雪を解かし切れざる潦

はらわたをくねくね納め秋昼寝

雪の歌がまじ

夏の夜のソースに化ける赤茄子

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の歌がまじ

公園に地元の赤子風薫る

空よりも水面に近し月見舟

空の下水面の上に

夕立や草刈る人にその草に

月よりも水面に近し月見舟

月の舟

湯加減を塩梅申す新茶殿

つくつくとつくつく法師名乗りけり

空の底 水の底に

揚羽蝶黒く正しく美しく

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

月の舟

舌頭に千転せよと蛞蝓

星空にこの子どもこの子雪達磨

空の底

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

珈琲は冷めゆくままに神の留守

空の底

亜米利加へ新車を運ぶ月の船

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

空の底

名月や江戸の昔の下屋敷

山水は落葉の間を抜け行けり

空の底

2021・6・6【俳壇賞2021全252句】 選23句

13
新四季
収

またしても長閑な駅に止るなり

澄む水の小石ころがす流れかな

機関車に蒸気のむかし春霞

はらわたをくねくね納め秋昼寝

春雪を解かし切れざる潦

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

夏の夜のソースに化ける赤茄子

つくつくとつくつく法師名乗りけり

公園に地元の赤子風薫る

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

夕立や草刈る人にその草に

ねむりをるこの子どもこの子こたつの子

湯加減を塩梅申す新茶殿

紅さしてこの子どもこの子祭の子

揚羽蝶黒く正しく美しく

珈琲は冷めゆくままに神の留守

舌頭に千転せよと蛞蝓

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

山水は落葉の間を抜け行けり

秋晴や空港内のレストラン

腸詰の腸の悲しみ枯木立

アメリカへ新車を運ぶ月の船

2021・6・6【俳壇賞2021全252句】

14

オーストリアの子

「オーストリアの子」

選23句

春雪を解かし切れざる潦

つくつくとつくつく法師名乗りけり

機関車に蒸気のむかし春霞

澄む水の小石ころがす流れかな

またしても長閑な駅に止るなり

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

公園に地元の赤子風薫る

アメリカへ新車を運ぶ月の船

湯加減を塩梅申す新茶殿

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

舌頭に千転せよと蛞蝓

珈琲は冷めゆくままに神の留守

揚羽蝶黒く正しく美しく

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

紅さしてこの子どもこの子祭の子

山水は落葉の間を抜け行けり

夕立や草刈る人にその草に

腸詰の腸の悲しみ枯木立

夏の夜のソースに化ける赤茄子

ねむりをるこの子どもこの子こたつの子

秋晴や空港内のレストラン

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

はらわたをくねくね納め秋昼寝

2021・9・10【俳壇賞2021 全255句】 選25句

15

おめ子

春雪を解かし切れざる潦 秋晴や空港内のレストラン

機関車に蒸気のむかし春霞 はらわたをくねくね納め秋昼寝

またしても長閑な駅に止るなり つくつくつくつく法師名乗りけり

特急は一日二本花の駅 澄む水の小石ころがす流れかな

公園に地元の赤子風薫る 地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

湯加減を塩梅申す新茶殿 アメリカへ新車を運ぶ月の船

舌頭に千転せよと蛞蝓 縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

揚羽蝶黒く正しく美しく 珈琲は冷めゆくままに神の留守

紅さしてこの子どもこの子祭の子 お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

夕立や草刈る人にその草に 山水は落葉の間を抜け行けり

夏の夜のソースに化ける赤茄子 腸詰の腸の悲しみ枯木立

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ ねむりをるこの子どもこの子こたつの子

17行3段組14ポ 2021年9月10日 20:03 へ1 桐9
雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

Handwritten notes and corrections in red ink, including phrases like '年玉の元', 'おめ子', 'お屋敷の子', and various corrections to the main text.

2021・6・11【俳壇賞2021プランA「祭の子」全288句】

16

選39段綱14ポ 2021年9月11日 13:26 へ1 桐9

春雪を解かし切れざる潦

秋晴や空港内のレストラン

石段にわが町みゆる落葉掻き

機関車に蒸気のむかし春霞

はらわたをくねくね納め秋昼寝

落葉掻き長き小枝を拾ひけり

またしても長閑な駅に止るなり

つくつくとつくつく法師名乗りけり

山水は落葉の闇を抜け行けり

~~特急~~は一日二本花の駅

澄む水の小石ころがす流れかな

腸詰の腸の悲しみ枯木立

公園に地元の赤子風薫る

露の玉ほどけば消ゆる花結び

うたた寝のこの子どもこの子こたつの子

湯加減を塩梅申す新茶殿

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

舌頭に千転せよと蛞蝓

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

揚羽蝶黒く正しく美しく

また一つ仮説捨て去る夜長かな

~~初刷~~のずつしり重き平和かな

紅さしてこの子どもこの子祭の子

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夕立や草刈る人にその草に

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夏の夜のソースに化ける赤茄子

珈琲は冷めゆくままに神の留守

蟻地獄夜通し風の吹きすさび

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

ふにこまふふ和歌抄の鳥己

2021・6・12【俳壇賞2021A 全154句】 選30句

17

春雪を解かし切れざる潦

はらわたをくねくね納め秋昼寝

落葉搔き長き小枝を拾ひけり

△機関車に蒸気のむかし春霞

つくつくとつくつく法師名乗りけり

ふる雨は落葉の闇に染み行きぬ

またしても長閑な駅に止るなり

澄む水の石をのみこむ水輪かな

腸詰の腸の悲しみ枯木立

公園に地元の子風薫る

露の玉ほどけば消ゆる花結び

うたた寝のこの子どこの子こたつの子

湯加減を塩梅申す新茶殿

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

舌頭に千転せよと蛞蝓

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

揚羽蝶黒く正しく美しく

また一つ仮説捨て去る夜長かな

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

紅さしてこの子どこの子祭の子

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夕立や草刈る人にその草に

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夏の夜のソースに化ける赤茄子

珈琲は冷めゆくままに神の留守

蟻地獄夜通し風の吹きすさび

石段にわが町みゆる落葉かな

秋晴や空港内のレストラン

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

2021.9.16 俳壇賞2021A 全163句 選30句

18

春雪を解かし切れざる潦

はらわたをくねくね納め秋昼寝

落葉掻き長き小枝を拾ひけり

またしても長閑な駅に止るなり

つくつくとつくつく法師名乗りけり

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

公園に地元の子風薫る

澄む水の石をのみこむ水輪かな

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

露の玉ほどけば消ゆる花結び

うたた寝のこの子この子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子この子祭の子

また一つ仮説を捨てる夜長かな

つくづくと凶邪の邪なること

夕立や草刈る人にその草に

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

つくづくと凶邪の邪なること

夏の夜のソースに化ける赤茄子

秋深し画鋏の穴は紙に木に

つくづくと凶邪の邪なること

大仏の背中に窓や星涼し

珈琲は冷めゆくままに神の留守

つくづくと凶邪の邪なること

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

石段にわが町みゆる落葉かな

つくづくと凶邪の邪なること

秋晴や空港内のレストラン

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

つくづくと凶邪の邪なること

19

169句

春雪を解かし切れざる潦

秋晴や空港内のレストラン

落葉掻き長き小枝を拾ひけり

またしても長閑な駅に止るなり

はらわたをくねくね納め秋昼寝

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

公園に地元の子風薫る

つくつくとつくつく法師名乗りけり

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

白露や解けば消ゆる花結び

うたた寝のこの子どもこの子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

澄む水の石をのみこむ水輪かな

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子どもこの子祭の子

アメリカへ新車を運ぶ月の船

夕立や草刈る人にその草に

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夏の夜のソースに化ける赤茄子

秋深し画鋏の穴は紙に木に

大仏の背中に窓や星涼し

珈琲は冷めゆくままに神の留守

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

石段にわが町みゆる落葉かな

夢見よとささやくやうに遠花火

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

2021・6・21【俳壇賞2021A 全170句】 選30句

20

春雪を解かし切れざる潦 秋晴や空港内のレストラン

またしても長閑な駅に止るなり はらわたをくねくね納め秋昼寝

公園に地元の赤子風薫る つくつくつく法師名乗りけり

湯加減を塩梅申す新茶殿 白露や解けば消ゆる花結び

舌頭に千転せよと蛞蝓 澄む水の石をのみこむ水輪かな

揚羽蝶黒く正しく美しく 澄む水のやがて母なる海へかな

紅さしてこの子どもこの子祭の子 地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

夕立や草刈る人にその草に アメリカへ新車を運ぶ月の船

夏の夜のソースに化ける赤茄子 縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

大仏の背中に窓や星涼し 秋深し画鋏の穴は紙に木に

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ 珈琲は冷めゆくままに神の留守

夢見よとささやくやうに遠花火 お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

落葉掻き長き小枝を拾ひけり

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

腸詰の腸の悲しみ枯木立

うたた寝のこの子どもこの子こたつの子

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

年玉の穴あき金貨枕辺に

2021・9・21【俳壇賞2021A 全173句】 選30句

21

17行3段組14ポ 2021年9月21日 19:56 へ1 桐9

春雪の白く積りし潦

秋晴のフライトを待つレストラン

落葉掻き長き小枝を拾ひけり

またしても長閑な駅に止るなり

はらわたをくねくね納め秋昼寝

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

公園に地元の赤子風薫る

つくつくとつくつく法師名乗りけり

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

白露や解けば消ゆる花結び

うたた寝のこの子この子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

澄む水はやはがて母なる海へかな

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子この子祭の子

アメリカへ新車を運ぶ月の船

夕立や草刈る人にその草に

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夏の夜のソースに化ける赤茄子

秋深し画鋏の穴は紙に木に

~~大仏の~~背中に窓や星涼し

珈琲は冷めゆくままに神の留守

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

木枯の屋根を大きく給油店

夢見よとささやくやうに遠花火

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

9.22 UDポスト

雪-水

春雪の花にて
消え 白雲にたまり

春の雪のついにしは
白雲にたまり

2021.09.22 俳壇賞2021A 全178句 選30句

22 UD

17行3段組14ポ 2021年9月22日 02:49 桐9

春雪の白く積りし涼

はらわたをくねくね納め秋昼寝

ふる雨は落葉の間にしみとほる

またしても長閑な駅に止るなり

つくつくとつくつく法師名乗りけり

一枚の氷歩道を硬くせり

公園に地元の赤子風薫る

白露や解けば消ゆる花結び

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

澄む水は母なる海へ流れ行く

うたた寝のこの子どこの子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子どこの子祭の子

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夕立や草刈る人にその草に

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夏の夜のソースに化ける赤茄子

珈琲は冷めゆくままに神の留守

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

木枯の屋根を大きく給油中

夢見よとささやくやうに遠花火

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

秋晴のフライトを待つレストラン

落葉舞ふ長き小枝を拾ひけり

iphone
ipad

1059

2021・9・22【俳壇賞2021A全一季一旬】 選30句

23 UD

17行3段組14ポ 2021年9月22日 08:35 へ1 桐9

春雪の白の勝ちたる水たまり
はらわたをくねくね納め秋昼寝
ふる雨は落葉の間にしみとほる

またしても長閑な駅に止るなり
つくつくとつくつく法師名乗るなり
一枚の氷歩道を硬くせり

公園に地元の子風薫る
白露や解けば消ゆる花結び
腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿
~~澄む水の母なる海に遠きかな~~
うたた寝のこの子どこの子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓
地下鉄が闇を押し行く赤い羽根
雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく
アメリカへ新車を運ぶ月の船
年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子どこの子祭の子
縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夕立や草刈る人にその草に
秋深し画鋏の穴は紙に木に

夏の夜のソースに化ける赤茄子
珈琲は冷めゆくままに神の留守

夢見よとささやくやうは遠花火
木枯の大きな屋根に給油中

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ
お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

秋晴のフライトを待つレストラン
落葉道長き小枝を拾ひけり

↑ 屋根に注油！
来て給油
木枯やガスコンロに注油

edit 氏本

2021・9・23 【俳壇賞2021A 全200句】 選30句

24

この子とこの子

この子の心を

17行3段組14ポ 2021年9月23日 03:27 桐9

春雪の白の勝ちたる水たまり

はらわたをくねくね納め秋昼寝

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

またしても長閑な駅に止るなり

つくつくとつくつく法師名乗るなり

一枚の氷歩道を硬くせり

公園に地元の子風薫る

白露や解けば消ゆる花結び

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

澄む水は母なる海を恋ひ流る

うたた寝のこの子この子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

紅さしてこの子この子祭の子

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

夕立や草刈る人にその草に

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夏の夜のソースに化ける赤茄子

珈琲は冷めゆくままに神の留守

夢見よと呟くやうに遠花火

木枯のガスステーション屋根大

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

秋晴のフライトを待つレストラン

落葉道長き小枝を拾ひけり

Handwritten notes and corrections in red ink, including phrases like '木の枝の穴あき階段の上をり' and '一枚の氷歩道'.

2021・9・25【俳壇賞2021A 全200句】 選30句

25

春雪の白の勝ちたる水たまり
またしても長閑な駅に止るなり

秋晴のフライトを待つレストラン
はらわたをくねくね納め秋昼寝

ふる雨は落葉の闇にしみとほる
木枯や鉄の階段螺旋なす

公園に地元の子風薫る

白露やほどけば消ゆる花結び

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

澄む水は母なる海を恋ひ流る

うたた寝のこの子どこの子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

縦横に水羊羹の詰め合せ

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

紅さしてこの子どこの子祭の子

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夕立や草刈る人にその草に

珈琲に練乳滴らす神の留守

夏の夜のソースに化ける赤茄子

木枯のガステーション屋根大き

夢見よと眩くやうに遠火花

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

落葉道長き小枝を拾ひけり

2021・6・29【俳壇賞2021A 全202句】 選30句

26

春雪の白の攻め入る水たまり

秋晴のフライトを待つレストラン

ふる雨は落葉の闇にしみとほる

またしても長閑な駅に止るなり

はらわたをくねくね納め秋昼寝

木枯や鉄階段の螺旋なす

公園に地元の子風薫る

白露やほどけば消ゆる花結び

腸詰の腸の悲しみ枯木立

湯加減を塩梅申す新茶殿

澄む水は母なる海を恋ひ流る

うたた寝のこの子どこの子こたつの子

舌頭に千転せよと蛞蝓

地下鉄が闇を押し行く赤い羽根

雪の夜に寝かす味噌・酒・赤ん坊

揚羽蝶黒く正しく美しく

アメリカへ新車を運ぶ月の船

年玉の穴あき金貨枕辺に

縦横に水羊羹の詰め合せ

縫ひ上げて切らるる糸の夜長かな

紅さしてこの子どこの子祭の子

秋深し画鋏の穴は紙に木に

夕立や草刈る人にその草に

珈琲に練乳滴らす神の留守

夏の夜のソースに化ける赤茄子かな

木枯のガスステーション屋根大き

夢見よと眩くやうに遠火花

お屋敷の子らが落葉を掃いてをる

蟻地獄夜通し風の吹きすさぶ

落葉道長き小枝を拾ひけり